

第三戰隊戰鬥詳報第五號

明老三十七年八月十日
於第地吳旗艦八雲
出羽第一艦隊司令官

一天候 風候

八月十日(水)天候午前曇ニシテ午後快晴濛氣アリ午
前南風ニシテ午後南ニ東風ニシテ海上靜穩晴雨計二九
七六乃至二九九。寒暖計七十六度乃至八十一度

敵ニ出會スル以前我牒知シタル敵情及執リシ

ル方畧並ニ戰鬥開始ノ時刻

天明第三戰隊(八雲並置十歳高砂ノ四隻アリ
淺間ハ炭水補充ノ為メ昨九日第三地莫ニ赴クハ老
鉄山南方約十五哩ノ地莫ニ現出シ前日未ノ監視
ヲ続行ス

本日午前八時八雲高砂ヨリテ航行中ノ内筒砲射撃ヲ

三戰隊

施行セシムル豫定ニシテ之カ準備中敵艦脱出警報
ニ接シ其警報次ノ如シ

六時三十分 扶桑ヨリ三隻ハ「ロビツク」出港(電)

八時七分 橋立ヨリ三隻ハ敵艦順次旅順外ニ出テツヤリ(警電)

八時十六分 橋立ヨリ三隻ハ「ロトキサン」「アスコルド」「ロビツク」外ニアリ(電)

八時十六分 雷ヨリ八隻ハ「ツエサレウツチ」出港(信号)

八時廿分 扶桑ヨリ三隻ハ午前七時五十分「ロトキサン」「セロス」トホ

「ロ型」一隻「アスコルド」出港(電)

八時三十分 雷ヨリ八隻ハ今朝七時三十分「ツエサレウツチ」出港ス

早朝来西港ニ煤煙多ク認ム或ハ

艦隊出港ニ非ラサルカ不取敵報告ス

敵ノ主力艦隊見ユ(警電)

九時十五分 橋立ヨリ三隻ハ

「ロビツク」「ロトキサン」「ツエサレウツチ」「マレスウエ

ツト出ツ(電)

九時三十分扶桑ヨリ日進

午前九時十分敵ノ戦艦五隻二三等巡

洋艦二隻砲艦三隻駆逐艦(以下不明)

九時五十分扶桑ヨリ三笠

敵ノ主力艦隊見ユ(警電)

九時五十分橋本ヨリ三笠

敵ハ南ノ下セントスルモノノ如シ(警電)

十時薄雲ヨリ 八雲

敵ノ艦隊ハ八時過ヨリ漸次天ヲ出

テ今川沖ノ岩ノ東ニ集リツマアリ東ヨリ

之ヲ撃フレハコトヲザンコボゾグセワスト

ホリコアスコルドコヂヤナコバルラダコノビツム

ホルツワニレテコバレスウエツトハ猶若内ニ

在ルカ如シ城頭山ノ下ニ砲艦一隻駆

逐艦ト汽船数隻ニテ掃海ヲナレツ

アリコビツム側ニ数隻ノ駆逐艦ヲ伴

十時白鷹ヨリ八雲へ

ト居ルモノ、如レ川ナシ、岩ノ東ニ出テシ
ルモノハ餘リ活潑ニ運動セス他ヲ待
合セ居ルカ如キ模倣アリ察スルニ南
下スル準備ヲナレ居ルナラン(信号)
今蒸ロヲ偵察スルニ敵艦隊「ヂヤ」
型及「ボベ」型各一隻及外ニ隻出
送セリ(信号)

十時十三分橋立ヨリ三笠へ

敵ハ南東方ニ向テ進ム(警電)

十時三十九分飛ヨリ八雲へ

敵艦隊九隻蒸ロヲ出テ西ニ向テ航進

ス敵艦隊ハ駆逐艦一隻ヲ先頭ニレ

ツエサレ母「コレトキザン」ボベ「ダ」ハレスウ

エツト「ノビツク」アスコルド「ハル」ガヤ

外一隻老鉄山ヲ繞リ渤海ニ向テ信号

十一時十五分千歳ヨリ八隻ノ敵艦隊ハ發砲シツ、南東ニ向フモノ、

如シ先頭ハソウエオレウ年ツチナリ(信号)

十一時五十三分八隻ヨリ三隻ノ敵艦渤海湾ノ方ニ向ヒタリ(警告電)

十一時五十七分千歳ヨリ八隻ノ敵艦六隻駆逐艦ハ隻ヲ引連レ老

鉄山ノ南ヨリ凡ソ南々東ノ方向ニ向

居レリ(信号)

正午八隻ヨリ三隻ノ敵ハ東方ニ向テ進ム(警告電)

之ヨリ先キ當隊ハ監視中常ニ微速ニテ行進シ報告艦艇

ノ接近シ来ル毎ニ一時停止スルヲ例トセリ然レモ敵艦隊出

発確實ナルヲ知ルマ午前十時汽力ヲ充分ニ蓄マヘキ旨

ヲ命レ十時二十一分原速ト運トナシ西行ス然ルニ初メ敵

艦隊ハ南東方ニ航行スルカ如キノ報アリレニ依リ十時廿三分

右十六隻正面襲換ヲナシ東航ス十一時三十九分水雷艦

三

報告ノタメ接近セリヲ以テ微速トナス其報告ニヨリ敵艦隊ハ渤海湾ノ方ニ向フトノ事ヲ知リシ故十一時十三分在十六
矣ノ正面変換ヲナシ西行ス十一時廿二分原速ニ復シ同
三十六分西ノ北ニ變針同四十分原速十二哩
正午當隊ハ老鉄山ヲ北ニ西十八哩ニ見ルノ位置ニアリ
朝未曇天ニシテ濛濛水乎線ヲ單メ遠距離ヲ展望
スルヲ能ハス僅カニ諸報告ニヨリ敵情ヲ知ルニ止マリシ
カ此時ニ至リ初メテ敵艦隊ノ列ヲ整ヘテ東航スルヲ確
認セリ
零時十分戰鬥旗ヲ掲ケ針路適宜彼ト併航シテ對敵
運動ヲ始ム同時ニ第三驅逐隊第十六艇隊其他附近ノ
驅逐隊艇隊ヲ以テ當隊ノ右側(非戰側)ニ位置セシム
三 戰鬥前彼我ノ隊形

敵艦隊ハノビツシラ開巨離ニテ先頭ニ進ノツエサレウキツチ
「トトサシ」^{ボヘウカ}「マヘ」^{マヘ}「マヘ」^{マヘ}「マヘ」^{マヘ}「マヘ」^{マヘ}「マヘ」^{マヘ}「マヘ」^{マヘ}
「ド」^ド「ハ」^ハ「ラ」^ラ「ダ」^ダ「チ」^チ「マ」^マ「ナ」^ナ「レ」^レノ單縱陣ニテ航行ス艦ノ巨離約六
百又驅逐艦八隻ハ左側ニ右位ニ病院船「モンゴリヤ」^{モンゴリヤ}ハ後方ニ航行ス
我艦隊ノ各隊ハ尙ホ遠隔ニテ此附近ニアラス單り第三戰
隊ノミ之下対翻抗ス第三戰隊ハ八隻並置高砂千歳ノ
四隻ニシテ單縱陣ヲナシ零時十分ヨリ敵艦隊ヲ宛モ
我左舷正横後ニ見ル翻如ク速力ヲ加減シテ行動ス
當時其先頭艦「ヒンシト」相距ル約二万米突ナリ
當時速力十二哩ヲ出ス時ハ常ニ彼ヲ追越セシヲ以
テ十哩ニ減シ針路約東トレ西ニ相對シテ敵ヲ我主
力艦隊ノ方向ニ誘致スルノ隊勢ヲ執リ敢テ肉薄セ

ス又得離セス時機ノ来ルヲ待ツ

零時五分第六戦隊ヲ北東ニ認め全舟五分第一戦隊

(春日日進ヲ加シ) 東ノ北ヨリ来リツアルヲ認め

零時五十分八雲ノビツシ相距ル一万六千トナリシ時ノビツシ

左舷ニ回頭シ十分後一度殿艦トナリ次テアスヨルドノ次位

ニ入ル

零時五十分八雲ハ敵ノ嚮導艦ヲツエサレウホツキヲ北五度西

約一万三千ニ望ムニ至リシモ互ニ砲火ヲ交ハスシテ相對峙ス

之レ敵艦隊未タ遇岩附近水雷布設面ノ危険界ヲ航過

シアラサルヲ以テ茲ニ交戦スルハ適當ナル時機ニアラサリシヲ

シテナリ

午後一時第一戦隊ハ敵前面ニ来リ尚ホ敵ヲ冲合ニ誘

致セントシ左八雲一舟回頭横陣ヲ制リ南ノ東ニ進航シ次

テ更ニ左八頁ニ回頭シテ逆番号單縱陣トナルヲ見ル
一時七分第二駆逐隊我前方ヲ左ヨリ右ニ飛過ス三笠ニ向
テ敵ノ速力十哩ト測定スヘキ旨信子ス

四 戰鬥ノ情況 戰鬥中ノ運動及陣形并ニ戰鬥
終局ノ時刻

第一回戰鬥

一時八分逆番号單縱陣ニアル第一戰隊先頭艦日進
ヨリ敵艦隊ニ向ツテ初彈ヲ放キテ始メトシ漸次後続艦
ニ及ヒ茲ニ彼我主力艦隊ノ砲戰熾シナリ
敵艦隊未ダ遇岩ヲ通過セサルヲ以テ當隊ハ戰鬥開始
ノ時機ニ非ラサルヲ信シ龍ノマテ敵ヲ冲合適當ノ位
置迄誘出スル計画ナリシモ既ニ第一戰隊ノ戰鬥ヲ開始
セルヲ見ハ寸時モ猶豫スヘキニカラス依テ敵ノ後尾ヲ横過

其敵艦ヲ攻撃セントレ一時廿三分約左八英ニ正面ヲ轉
 原速十二哩ニテ進航セレニ時遇ル第一戦隊ハ右十六英ニ
 一存回頭シ茲ニ第一戦隊ト交又スルノ針路トナリシヲ
 同隊ノ行動ヲ妨害スルヲ避ケ左ニ轉針セリ時ニ第一戦
 隊ヲ目的トセル流彈當隊附近ニ落下スルモノ多カリシヲ
 一時四十二分敵ノ彈着距離外ニ出ツル爲メ針路南東
 場合ヨリ左八英ノ一存回頭シ一時五十分右八英ノ一存回頭
 行ヒ旧針路ニ復レ次テ敵ノ敵艦撃破ノ運動ヲ開始ス時
 五十三分十八節ノ戰鬥速カトナレテ北進シ第一戦隊ノ西方
 ヲ航過シ益々敵ノ敵列ニ迫ル
 二時三十五分左舷艦首ニ水雷艇ヲ認ム彼我ヲ識別シ
 能ハサルモ單獨ニテ老鉄山ノ東方ヨリ我ニ蒼進シ未ル
 形跡頗ル怪ムキヲ以テ八雲ハ少シク之ヲ避ケ六吋彈一發

0530

ヲ放キニ始メテ味方信号ヲ掲ケ且ツ樞頭ニ我軍艦旗ヲ
掲ケタリ又上層隊ハ右水雷艇ニ向ヒ左四隻ノ一存回頭ニテ激撃
セントレ且ツ第四駆逐隊ニモ攻撃ヲ命ゼシモ味方十九ノ分
明セシ後中止セリ

敵ノ巡洋艦隊ハ第一戦隊ノ運動ト當隊ノ壓迫ニ遇フマ
忽チ敵戰鬥艦隊ノ非戰側約一千米突ニ出テ、並進シハ
ビツクハ戰鬥艦隊ト巡洋艦隊トノ中間前ニ進出セリ三時
四分於之敵艦隊ヲ確認セシ以テ末層隊ノ期待セル敵ノ
殿タル巡洋艦隊攻撃ハ全ク水泡ニ没セリ

三時遇岩ヲ北ノ東約五哩ニ見ル位置ニアリ當隊ハ尚ホ
銳意敵ノ巡洋艦隊ノ追尾ヲ努ム此時殿艦^{ボルト}ハ
^四既見^セル^ハ其位置ヲ換^{タリ}ト相距^ル約^一方^七千^ニアリシモ
容易ニ之ヨリ追及スル能ハス而カモ^ハ遠^ク離^ルル

ニ拘ラス我ヲ砲撃セリ

三時十五分三笠ヨリ電命「第三戦隊ハ敵ノ巡洋艦隊ヲ攻撃セヨ」

今時右四莫ノ一存回頭ヲナシ敵ニ接近ヲ企テレニ敵戰鬥艦隊ハ益々我ヲ砲撃ス

三時十九分左四莫ノ一存回頭ヲナレ單縦陣ニ復レ敵ヲ追蹙ス此時第一戦隊ノ砲戦止ム

三時四十分敵ノ主力艦隊ヨリ當隊ニ対シ猛烈ナル砲撃ヲ始ム此時相距ル一万四千ヤリ敵ノ六吋彈一發八雲ニ命中炸裂シ井二名ノ死傷者ヲ生ス

三時四十五分距離一万三千五百トナリシヲ以テ八吋砲射撃ヲ試シレモ達セズ故ニ中止ス

此時第五戦隊ハ當隊ノ左舷後方ヨリ敵ニ向ヒツ、アリ

0532

驅逐隊艇隊之ニ從フヲ見ル又八重山ハ數艇隊ヲ率ヒ前
 方ヨリ我ニ向ヒ来リツ、アルヲ認ム
 既ニ約ニ時間十八哩ノ高速力ニテ敵ノ巡洋艦隊ヲ追尾セ
 レモ遙ニ右舷前方ニアリテ航行レニ万米突以內ニ追及ス
 ル能ハス恰モ此時敵艇隊ハ針路ヲ南東方ニ變レ距離倍々
 遠隔ム加之當時敵ノ陣列タルヤ戰艦六隻ハ右列ニ巡洋艦
 四隻ハ左列ニレテ列ノ間隔一ノ過キス我レ巡洋艦ヲ打ッ
 ン激スレハ敵ノ戰艦ハ必スマ主砲彈ヲ以テ我ヲ猛射セン目下
 ノ対勢上巡洋艦ヲ避ツノ成算ナキヲ見察シハ雲淺間(後
 方ヨリ来リツ、アリ)ヲ第一戰隊ノ後尾ニ合レ笠置以下三艦
 ハ其後方針^後位置セシメ以テ第一戰隊ト共ニ敵ニ當ルノ
 優ルヲ断定レ四時針路ヲ南折レ^{ハハハハ}トモニヨリヤン
 後尾ヲ横断レ針ニ第一戰隊ノ方ニ進メリ

五時電命アリ「驅逐隊艇隊ハ皆早ク第一戰隊ノ側ニ
来シト」

第二回戰鬥

五時四十分敵ノ駆艦「ボルト」（異揚火庫艦）ヨリ第一戰隊
ニ向ヒ砲撃ヲ開始ス第一戰隊直ニ應砲シ砲戰再ヒ熾シ
ナリ

五時四十五分笠置千歳高砂ハ當隊ノ右後方便宜ノ
位置ニ出カシメ便宜ノ運動ヲ執ラシムハ雲ハ第一戰隊
ノ通跡ニ入り駆艦日進ヨリ約二千米突ヲ距テ、速力十
五哩ニテ之ニ先行シ六時敵ノ駆艦ヲ距ル約一千一千ニ
近接スルマハ吋砲砲撃ヲ開始シ九千ニ近クマ六吋砲ノ
緩射ヲ行ヒ專ラ「ボルト」一艦ニ砲火ヲ集中ス
此時「ボルト」ハ独り甚ク僚艦ニ後シテ孤立シ恰モ

航行ニ堪ヘサルモノ、如ク砲火又殆ント沈黙シ僅ニ後部十
二吋砲ノ緩射ヲナスノミナリレヲ以テ八雲ハ第一戦隊ノ列線
ヨリ遙ニ内方ニ近寄り約七千ノ距離ニ於テ猛射スル熱氣
亦ニ命中炸裂スルモノ多シ
六時四十分敵ノ嚮導艦ヲツユサレヲ以テハ飛機破壊シタ
ルニ因ルカ左方ニ急轉回ヲ始ム是ヨリ敵ノ陣形ハ忽ニシテ
紛乱ヲ極メ各艦ハ右往左行仰々ノ運動ヲ執リ宛カモ
雜然タル一塊固ク觀ヲ呈ス此機ニ乘レ八雲ハ尚ホ第一
戦隊ニ航行シテカウ此塊固ク最近敵艦ニ向テ約七千
ノ距離ニテ猛撃ス八雲ノ右方クオタイニ位置セル笠置高
破千歳モ又之ニ集弾ス此時彼我ノ砲彈ハ水煙ヲ奔騰シ
敵艦ニ命中セル我砲彈ハ炸裂シテ大火災ヲ連起セシム
其状況頗ル凄壯ヲ極ム

七時頃敵艦隊ハ愈ヨ混亂紛糾ノ其退洋艦隊ハ第一
ニ駆逐艦ヲ率ヒ西方ニ向ヒテ逃竄セントスルモノノ如シ此時淺間
ハ今朝急報ニ接シテ四時四十分第三地矣ヲ察シ第三戦隊ニ
合セント急行中此敵退洋艦ノ運動ヲ妨害シ之ヲ撃破スルノ
目的ヲ以テ第三戦隊ニ合スルヲ止メ七時三十分ヨリ單獨ニテ
孤立艦^{カハル}ノ向ヒ九千八百ニテ射撃ヲ開始シテ敵
退洋艦隊ノ前路ニ先行ス七時十七分敵トノ距離八千六
百トナリテ以テ目標ヲ退洋艦隊ニ移シテアスコルドヲ猛
撃ス此時第五戦隊モ又淺間附近ニアリテ敵ノ退洋艦
及駆逐艦ト砲戦ス
七時四十分淺間ハ敵艦^{カハル}ノ型^{カハル}ハホルタ^{カハル}型並ニ退
洋艦三隻ヨリ反撃セラレ一時此地ニ陥リシモ日没ニ接近
セルト速力優ナリレタメ一モ敵彈命中スルモノナカリシ

今ヤ敵艦隊ノ全部ハ四分五裂シ「アスコルド」及「ロビツク」並ニ
駆逐艦數隻ハ群ヲ離レテ南下シ「ワ」我八重山ノ率ニ驅
逐艦隊ニ向テ猛進シ我味方ノ死地ニ陥ラシムルヲ發
見セシカバ當隊ハ之ヲ赴援センカタメ七時四十分第二小
隊ヲ通跡ニ入レシメ戰鬥速カトナシ之ニ急行八時ヨリ一乃
乃至八午ヨリ漸次接近シ「ワ」「アスコルド」及「ロビツク」ヲ擊攘
ス此時遙カ南西方ニ須磨一艦孤立シ又兩敵艦ヨリ砲擊
セラレ苦戦シ「ワ」「アル」ヲ見ル依テ當隊ハ倍々右兩敵艦ニ
對シ全力接戦ノ手段ヲ採リタリ第六戰隊モ亦應援セシ
ヲ以テ須磨ハ漸ク第六戰隊ニ合レ八重山以下驅逐艦隊
ハ安全ニ敵砲火ヲ免ルルヲ得タリ
八時三十分日全ク没シ距離及彈着ヲ認識シ得サル
ニ至リ然ルニ此時當隊ノ右側ニ敵驅逐艦數隻我ニ

向ケルヲ見ル依テ砲撃ヲ止メ艦首ヲ左轉シテ正東ニ直航
ス第六戦隊ハ尚ホ砲火ヲ続文シツアルヲ見ル
夜ニ入りテ戰鬥旗ヲ撤ス

五戰鬥セシ彼我ノ勢力

敵軍

主戰艦隊

ツエサレウツキレトキサン^{ホブーダ}ノレネウエツ^{ベレスウエツト}
^{ホブーダ}ホブーダ^{ホブーダ}ホブーダ^{ホブーダ}

六隻

遊洋艦隊

チヤナレ^{ハルテダ}コアコルド^{コノヅツク}
バスボニキマードヌイ^{ベズストラ}レズイ^{コズレウムヌイ}

四隻

駆逐艦

スールヌイ^{ゴロツウオイ}ブヂーテリスイ^{クン}コイギー^{クン}
ウイノスリーウイ^{クン}

八隻

我軍

第一戦隊 三笠 朝日 富士 敷島 春日 日進

六隻

| | | |
|-------|--|----|
| 第三戰隊 | 八雲、淺間、笠置、午歳、高砂 | 五隻 |
| 通報艦 | 八重山 | 一隻 |
| 第五戰隊 | 杣島、橋立、鎮遠 <small>(春日昌進、第一戰隊二屬)</small> | 三隻 |
| 第六戰隊 | 明石、須磨、和泉、秋津洲 <small>(千代田修理中)</small> | 四隻 |
| 第一驅逐隊 | 白雲、飛段、朝潮 | 三隻 |
| 第二驅逐隊 | 雷、電、曙、曉 | 四隻 |
| 第三驅逐隊 | 薄雲、東雲、連 | 三隻 |
| 第四驅逐隊 | 速島、春雨、村雨、朝霧 | 四隻 |
| 第五驅逐隊 | 陽炎、不知火、叢雲、夕霧 | 四隻 |
| 第一艇隊 | 六十七、六十八、六十九、七十号 | 四隻 |
| 第二艇隊 | 三十七、三十八、四十五、四十六号 | 四隻 |
| 第三艇隊 | 五十六、五十七、五十八、五十九号 | 四隻 |
| 第十艇隊 | 四十、四十一、四十二、四十三号 | 四隻 |

19

第十四艇隊

千鳥 真鶴

隼 鶴

四隻

第十六艇隊

白鷹 三十九

六十六 七十一号

四隻

第十七艇隊

六十二 六十三

六十四 六十五号

四隻

第十八艇隊

四十四 四十七

四十九号

三隻

六重九信号命令及訓令

午前十時八分發信

充分流力ヲ要ス

午後零時七分發信

駆逐隊艇隊ハ本隊ノ右側ニ位置ヲ執リ

一時 發信

戰鬥速力十八哩

一時四十二分 發信

左八隻一斉回頭

一時五十分 發信

右八隻一斉回頭

二時五分 發信

駆逐隊艇隊ハ彈着距離外ニ位置ヲ

執リ適宜ニ運動セヨ

二時五十八分發信

淺間ハ速力ヲ遇岩ノ南方十哩ニ向テ来レ

三時十五分着電

三時十七分發信

三時廿分發信

五時四十分發信

敵ノ巡洋艦隊ヲ擊滅セヨ

右四隻一存回頭

左四隻一存回頭

三番四番五番艦ハ第一戰隊ノ右側

ニ位置ヲ執レ

右斜メノ後方ニ位置ヲ執レ

第二小隊旗艦ノ通跡ヲ進メ敵駆逐

艦ヲ攻撃セヨ

第三戰隊ハ敵駆逐艦ヲ攻撃セヨ

全

着電

七戰鬥後ノ運動

午後十時南東ニ変針十時三十分原速十二哩トス十一時

南ニ東ニ変針ス

十一日(水)天候快晴 風南東 温度最高八四度(黄海)

午前六時五分西ノ南ニ敵仰ノ煤煙ヲ認め高碇ヲレテ
偵察セルメントレバニ解列セルモ其第一戦隊十ルカ如キ
ヲソテ止ム又同時西北西ニモ一仰ノ煤煙ヲ認め
同時三笠ヨリノ電報

「第一戦隊ハ午前五時六六八地莫ヨリ七二〇地莫ノ方

ニ進ミ引還ス第三戦隊ハ全時ヨリ第一戦隊ノ東

第六戦隊ハ西ヲ捜シテ全レ方角ニ進メ第三戦隊ハ

白翎島ニ尚一艦ヲ出シテ見張ラシメヨ速力十二哩

之ニ於テ六時廿五分正北ニ菱針シタリシカ全三十五分明石

ヨリ「敵ノ巡洋艦一隻見ユゴスヨルド六一九地莫ニアリ南々

東ニ進ム吾レ追撃ストノ報ニ接セルカハ六時三十五分右

十六莫ノ正面変換ヲナシ速力十四哩トナシ敵隊モゴスヨルド

ヲ追尾セント企テシモ詳細ニ圖上ヲ檢セル結果到底追

0542

及ニ能ハサルモノト断定シ六時四十八分左十六莫ノ正面襲換
ヨナレ原速十二哩ニ減シ北行ス

七時四十分次ノ如ク搜索列ヲ張ル

「三番四番艦ハ八雲ノ左五番艦ハ八雲ノ右ニ出テヨ各
艦ノ距離五哩ハ雲ハ断ヘス今ノ速力ニテ進航ス各艦便
宜速力ヲ増シ位置ニ附ケ針路北」

七時四十五分明石ヨリ来電

「敵ノ速力十六哩以上我追付キ得ス我尚追撃中我竹敷
要港附近追追尾スル豫定」
「アスコルド」午前七時五七一
地莫ヲ南下シツ、アリ」

之ニ対シ三笠ヨリ明石ニ電命

「其隊ハ「アスコルド」ヲ追撃シ成シ得レハ第三艦隊ニ知
ラセヨ 敵ノ主力今北方ニアルカ如シ」

0543

七時五十分北東ニ方リ煤煙ヲ認ム宛カモ南方ニ向ヒ来ルモ
ノ、如シ

八時右煤煙ハ敵駆逐艦ニ隻ナルヲ判明シ南東方ニ向
フカ如シ依テ八雲ハ東北東ニ変針シ之ヲ追尾ス

八時三十分ヨリノ着電

「高砂千歳ヲ本隊ニ送シ我今敵駆逐艦ヲ追撃ス」

依テ次ノ答電ヲナス

我今敵駆逐艦ニ隻追撃中高砂ノミヲ送ル

八時三十分高砂解列三笠ノ方ニ向フ

八雲ハ戦闘旗ヲ掲ケ速力十八哩トナシ敵駆逐艦ヲ追尾ス

又千歳ニ專ラ之ヲ攻撃スヘキヲ命シ八雲千歳笠置ヲ以テ

之ガ包圍攻撃ヲ企ツ千歳ニ高速力ヲ増加スヘキヲ命ス

此時又モヤ東方ニ一條ノ煤煙ヲ認ム

九時敵駆逐艦ハ針路ヲ東ニ變シタルタメハ雲モ又正東ニ
變ス

九時五十分左舷正横前約一英里大青島ヲ認ム

九時五十分八雲ハ敵駆逐艦ト益々離ルルノミニテ追及ス
ル能ハサルヲ認メ原速十四哩トナシ流テ戰鬥旗ヲ下シ正北
ニ復針シ速力十二哩トス並置モ又五哩ノ距離ヲ取ラシメ次
之ト共ニ北々西ニ進ム午歳ヲレテ全力之カ追進撃滅ニ當ラ
シム十一時北々西ニ變針ス

之ヨリ先キ我運送船五六隻附近ヲ徘徊スルヲ認ム當隊
追撃ニヨリ敵駆逐艦ハ我運送船ヲ攻撃スルノ態度ヲ
取ルニ至ラサリレハ傍俤ト云フヘシ尙白翎島無線電信所
ニハ運送船ノ航海危險ナルハキ旨電報ス

午後零時三十分北西ニ煤煙見ユ今時ニ砲声聞ユ其何夕

ルマ不明ナリシ

零時四十分笠置ヲシテ八雲ノ左十海里ニ位置セシ北西
ニ向フ右艦ニ淺間ヲ認ム

六時廿二分原速十里トシテ淺間笠置ニ復飯スヘキヲ命ス
七時笠置列ニ入ル今十五分半速トス

八時五分淺間列ニ入ル針路西北ニシテ遇岩ノ南方ニ向フ
淺間ハ昨日日没後高速カニテ迂路ヲ取り翌朝七時第一戰
隊ニ會シ捜索勤務ヲ取り且ツ打電ノタメ白舩島ニ来リ今
飯速ニ就キツアリシ所ナリ

十二日(金)天候晴風南二三温度最高八七度(第三地矣)
午前零時七分淺間ニ次ノ訓令ヲ下ス

其敵ハ今ヨリ當方面ニアル第三戰隊ヲ率ヒ敵ヲ追
視セヨ八雲ハ今ヨリ第三地矣ニ行シ

0546

八雲八十日ノ戰鬥ニ於テ戰死者外ニ重傷者ヲ生レ之ヲ成
ル可ク早クニ病院船ニ送ル必要ヲ認メタリレヲ以テ第三地
莫ニ故ルニキヲ命シタルナリ 淺間笠置ハ其俟封鎖醜備ニ
就ク

五時十五分艦首ニ方リ第一戰隊及^傳今援^傳錨第三地莫ニ
向ハントレワ、アルヲ認ム八重山ノ後方春日ノ前方ニ加リ
第三地莫ニ入若シ七時廿一分豫定位置ニ投錨急速
炭水補充ヲ命ス

八 結局ノ成績

ツエサレウキツキハ教団大火災ヲ起シ又飛機ヲ破壊サレタルカ
如シ

コレトキザンハ一時我艦隊ノ全部ノ集彈ヲ被ムリ教団大
火災ヲ起セリ

FD

レズウエツトハ西高橋トモ撃断セラレタリ

「^{ロバート}バード」損害尤モ少カリレナラン

「^{ハル}ハル」モ数回大火災ヲ起シ前砲塔砲ヨリハ発射セ

ス又機関部ニ故障ノ生セレモノト見ハ速力大ニ遅緩トナル

「^{カス}カス」モ煙突其他ニ大破損アリ

其後ノ情報ニヨレバ

一「^{ツエ}ツエ」レウキツチ「^{ツバ}ツバ」ホシキマードヌイ「^{ツバ}ツバ」ズストラーレヌイ

「^{ツバ}ツバ」ズレウムヌイ「^ハハ」膠州湾ニ遁入武装ヲ解ク

二「^{アス}アス」ゴルド「^カカ」ロツオライ「^ハハ」上海ニ遁入

三「^アア」ビツク「^ハハ」廿日夕膠州湾ニ入り廿日朝出港浦塩港ニ向

四「^チチ」ヤナレ行衛不明

五「^アア

六其他ハ皆翌十日旅順口ニ遁入ス

0548

九 損壞

八雲ニ於テ敵ノ六吋彈一發五番六吋砲門ノ少ク後方上甲板石炭積込口ニ命中シ中甲板ニ入りテ炸裂シレ、コリンキングレールト
 准士官室障壁其他附近ノ物件ヲ破壊スルコト多大ニシテ
 其彈片ノ大ナルモノハ再ヒ中甲板ヲ貫通シ一ハ下甲板第五
 區ニ他ハ石炭庫ニ入りタルモ 談所ニ於テハ損害ナレ又破
 片三何ハ「ブーム」ニ収メアル「カツタイ」ノ底ヲ貫キ三何ノ小
 孔ヲ生ス
 他艦ニハ損壞ナレ

十 死傷

| | | | | | | | | |
|-------|---|----|----|----|----|----|---|---|
| 戦 | 純 | 八雲 | 淺間 | 笠置 | 千歳 | 高砂 | 合 | 計 |
| 重傷後戦死 | | 四 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 四 | 八 |

| 合 計 | 十二 寸 鍛 鋼 | 十二 寸 班 鍛 鋼 | 六 寸 | | 八 寸 | | 八 雲 殘 間 笠 置 千 歲 高 破 合 計 |
|--------|-------------------|------------------------|-------------|-------------|--------|-------------|--|
| | | | 徹 甲 | 鍛 鋼 | 徹 甲 | 鍛 鋼 | |
| 三四六 | ○ | / | 一 三 一 | 一 一 六 | 四 一 | 五 八 | |
| 一六四 | ○ | / | ○ | 二 三 | ○ | 五 一 | |
| 四五 | 六 | 一 八 | / | / | 二 一 | ○ | |
| 〇 二 | ○ | 五 | / | / | 一 六 | 三 〇 | |
| 三三 | | 一 四 | / | / | 一 | 一 八 | |
| 三 二 | 六 | 三 七 | 一 三 一 | 二 二 九 | 八 一 | 一 五 七 | |

十一 兵器消耗

| 合 計 | 軽 傷 | 重 傷 |
|--------|--------|--------|
| 二二 | 三 | 七 |
| 一 | 一 | ○ |
| ○ | ○ | ○ |
| 二 二 | 二 二 | ○ |
| ○ | ○ | ○ |
| 二 五 | 六 | 七 |

十五

0550

十三 兵器故障

八吋砲

（八雲ノ分）

一前部左右砲共ニ三四発目ニ於テ又後部右砲ハ五発目ニ於テ發火装置ノ抽出動作不良ニシテ打針ヲ損セリ其原因ハ火管不良ノ爲メ少ク丸斯ヨ漏レ打針ヲ毀損シタルニヨル豫備品ト交換後再ヒ故障ナレ

二前部右砲十五発目ニ裝鎧電纜切断セリ

三後部左砲^初發ニ砲底降下過度ナリシメ踏板ヲ僅ニ

損セシメ砲身ノ右肩ヲ砲眼孔ニ輕触セリ

四後部左砲三發目ト六發目トノ二回ニ不發アリタリ火管

不良

五後部砲塔前方極度旋回ニテ發放中水壓旋回機

0551

不具合トナリシヲ以テ電勵旋回機ニ移シタルモ直ニ其
 働ヲナサズ依テ更ニ人力旋回機ニ移サント試ミツ、アリ
 シ時水壓旋回機恢復シ(最初ヨリ三十分間)發射継続
 ス水壓機故障ハ中央滑弁蓋ノ取附漏泄ヲ生シタ
 ルニ因ル又電勵機ノ故障ハ「コントローリング」スウヰツチノ
 フハンドルヲ結合スル「ピン」ノ位置ヲ遠ヘタル為メ電流通
 セサリシニ因ル

二) 淺間ノ分

- 一) 火管体鑄裂ノタメ發火装置損シタルヲ二回
- 二) 火管体切断ノタメ尾栓頭ヲ交換スルヲ一回
- 三) 火管体鑄裂ノタメ發火装置ノ螺蓋膨脹シテ脱出スルヲ
 ハサルヲ一回

三) 笠置ノ分

0552

一前部砲ヨリ發射セル徹甲彈砲口前約五十米突ニテ早
發セル一四

(四) 千歳ノ分

(五) 高砂ノ分

一前部砲九發目ニ火管溶解シ火管室内面ニ附着シ
發火裝置ノ拔出ニ困難ヲ感スルニ至リ尾栓藥ヲ交
換ス

六吋砲

(一) 八雲ノ分

一火管不良ノ多シ不發八回

二藥莖ノ嵌入セザルモノ十三回

(三) 淺間ノ分

一火管不良ノ多メ不発一回

二火管ハ発火セルモ傳火薬不良ナルタメ装薬ニ発火セズレ
テ不発ナルト三回

三薬莖内傳火薬ト信管トノ間ニ紙片ヲ挿入シアリ為メ
二火管ハ発火セルモ装薬ニ発火セズレテ不発ナルト一回

四電纜破損スルト一回

十三各艦若クハ各人ノ功績

各艦各人何レモ能ク自己ノ職分ヲ守リテ勇戦シ敵ニ
至大ノ損害ヲ与ヘタル功績ハ顕著ナリ殊ニ長時間戰鬥
速力ヲ維持シ寸毫ノ故障ヲモ生セズ能ク遊撃隊夕
ル第三戦隊ノ威力ヲ発揚シタルハ特記スヘキモノト
認ム

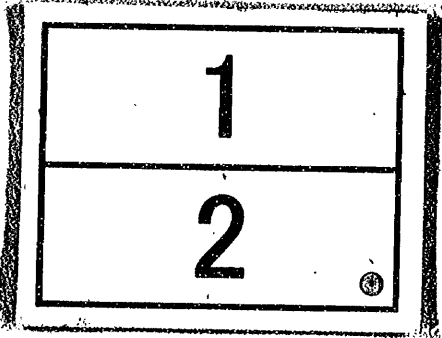
十四一般ノ士氣

0554

一般ノ士氣ハ隆張ス殊ニ初次ノ海戰以來數回ノ實
戰ヲ経タル今日衆庶何レモ敵彈雨注ノ下ニ於テ泰然
自若其職務ヲ尽スハ特筆スヘキモノト認ム

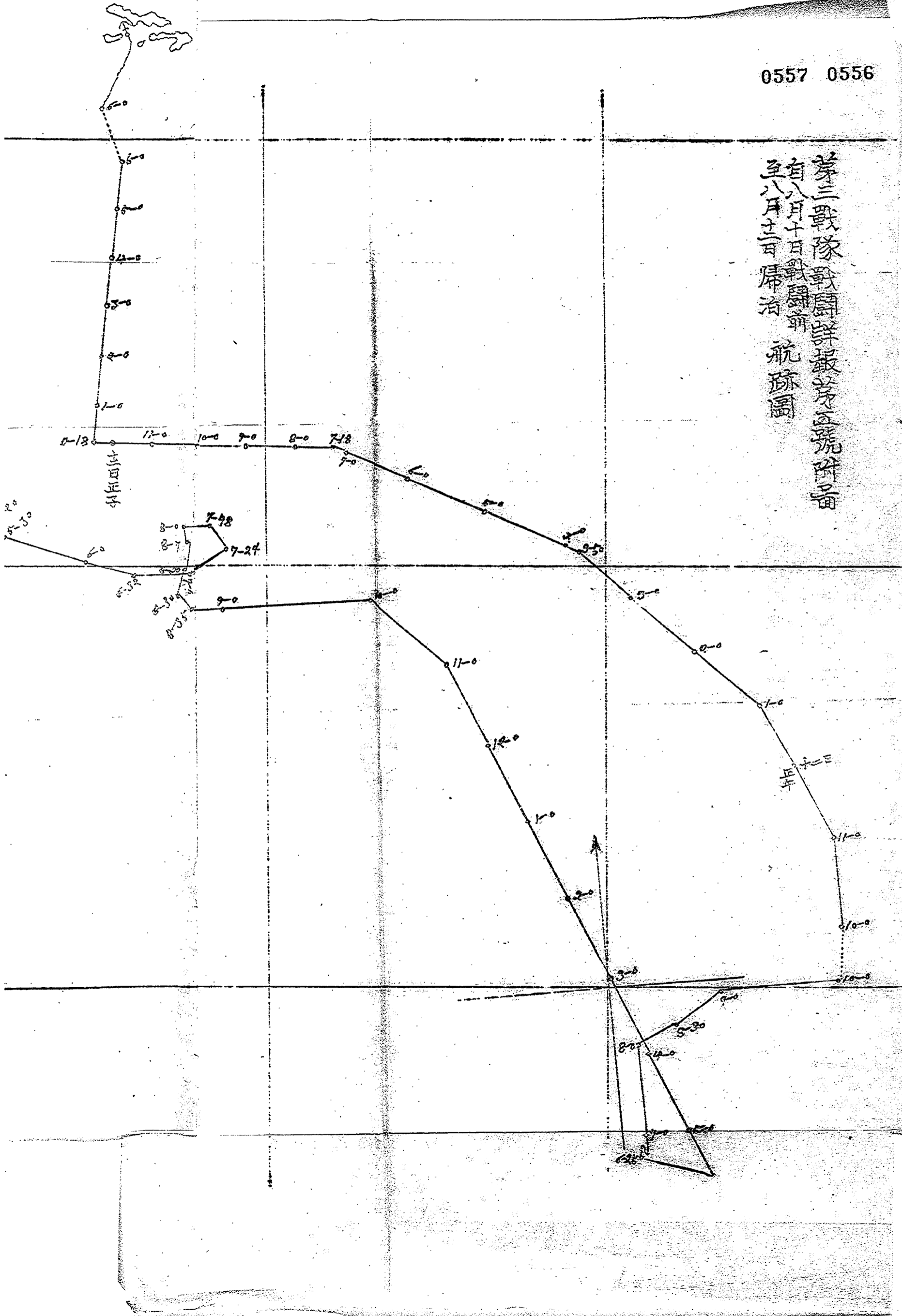
0555

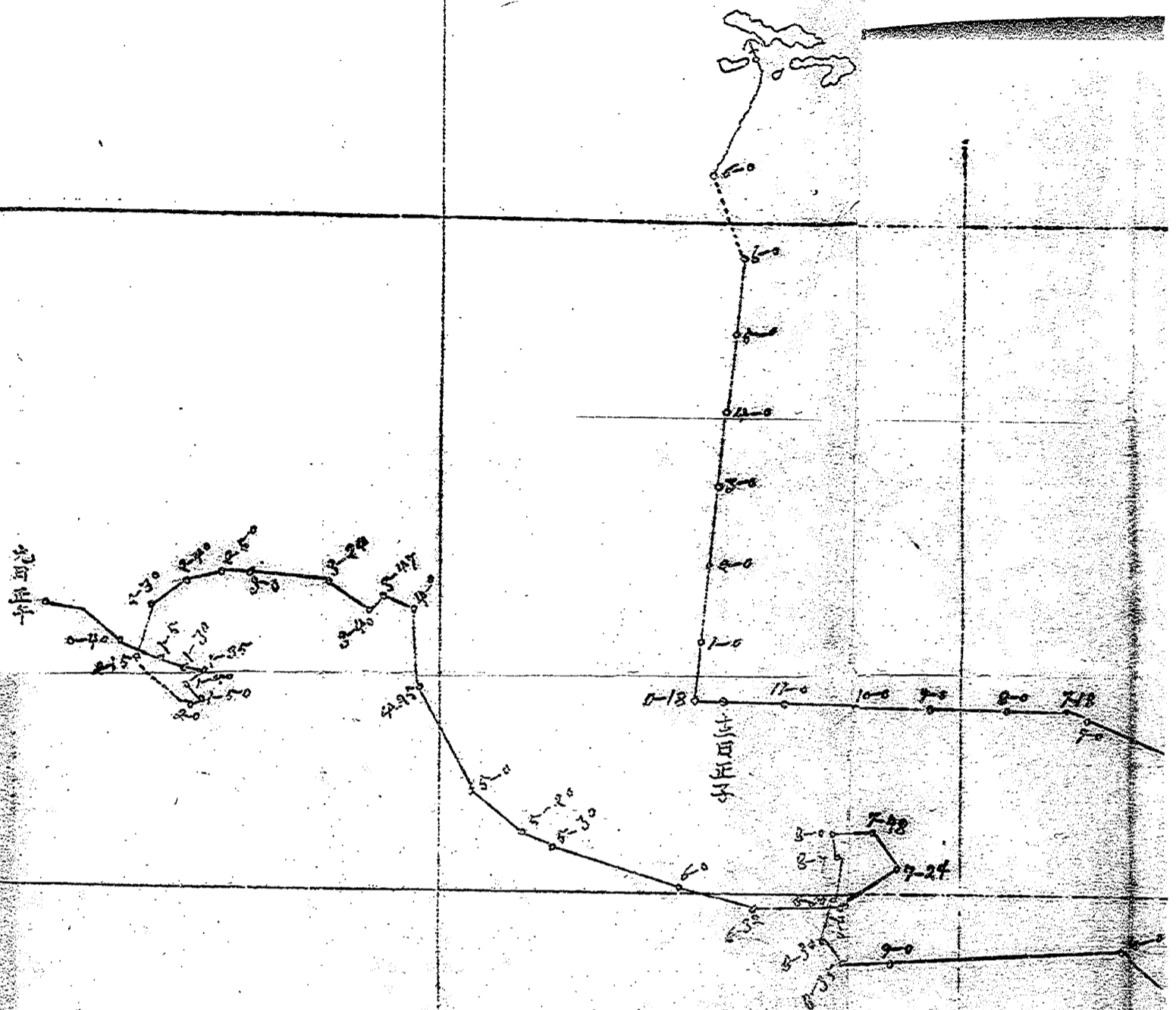
分割撮影ターゲット

| | |
|------------------------------|---|
| <p>分割した 部分の 撮影順序</p> |  |
| <p>分割撮影 した理由</p> | <p>A 3 版 以 上 の た め</p> |
| <p>上記のとおり分割撮影した事を証明する。</p> | |

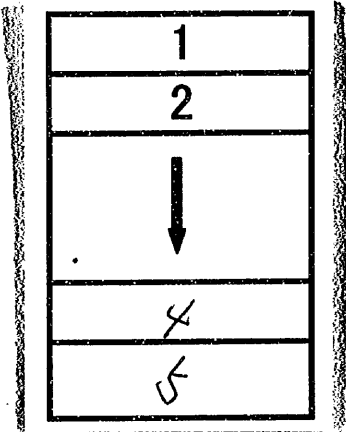
0557 0556

第三戰隊戰團詳報
自八月十日戰開始
至八月十二日歸途
航跡圖



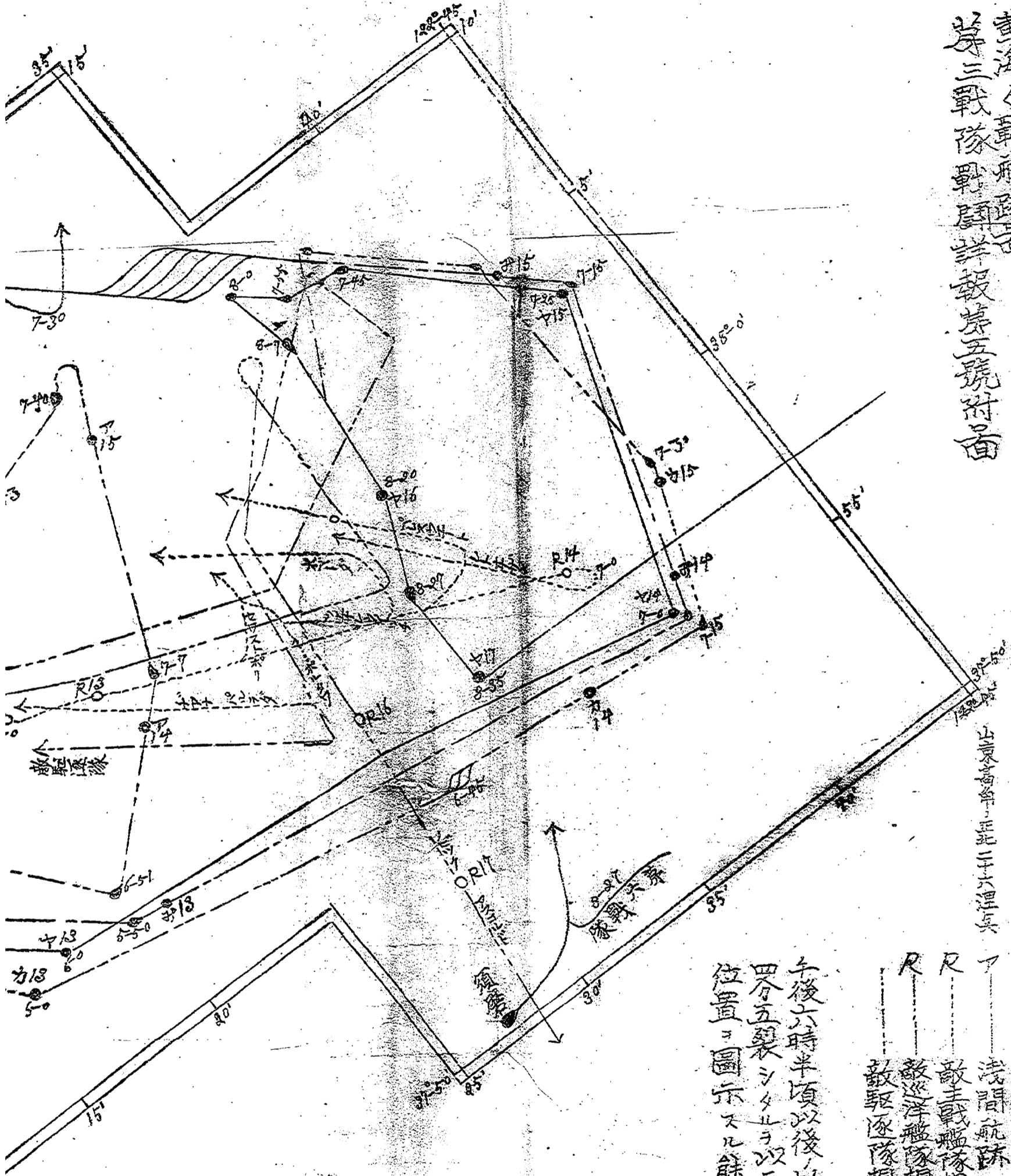


分割撮影ターゲット

| | |
|---------------------|---|
| 分割した 部分の 撮影順序 |  |
| 分割撮影 した理由 | A 3 版 以 上 の た め |
| 上記のとおり分割撮影した事を証明する。 | |

明治三十七年八月十日
 黄海の戦艦航跡面
 第三戦隊戦艦航跡面

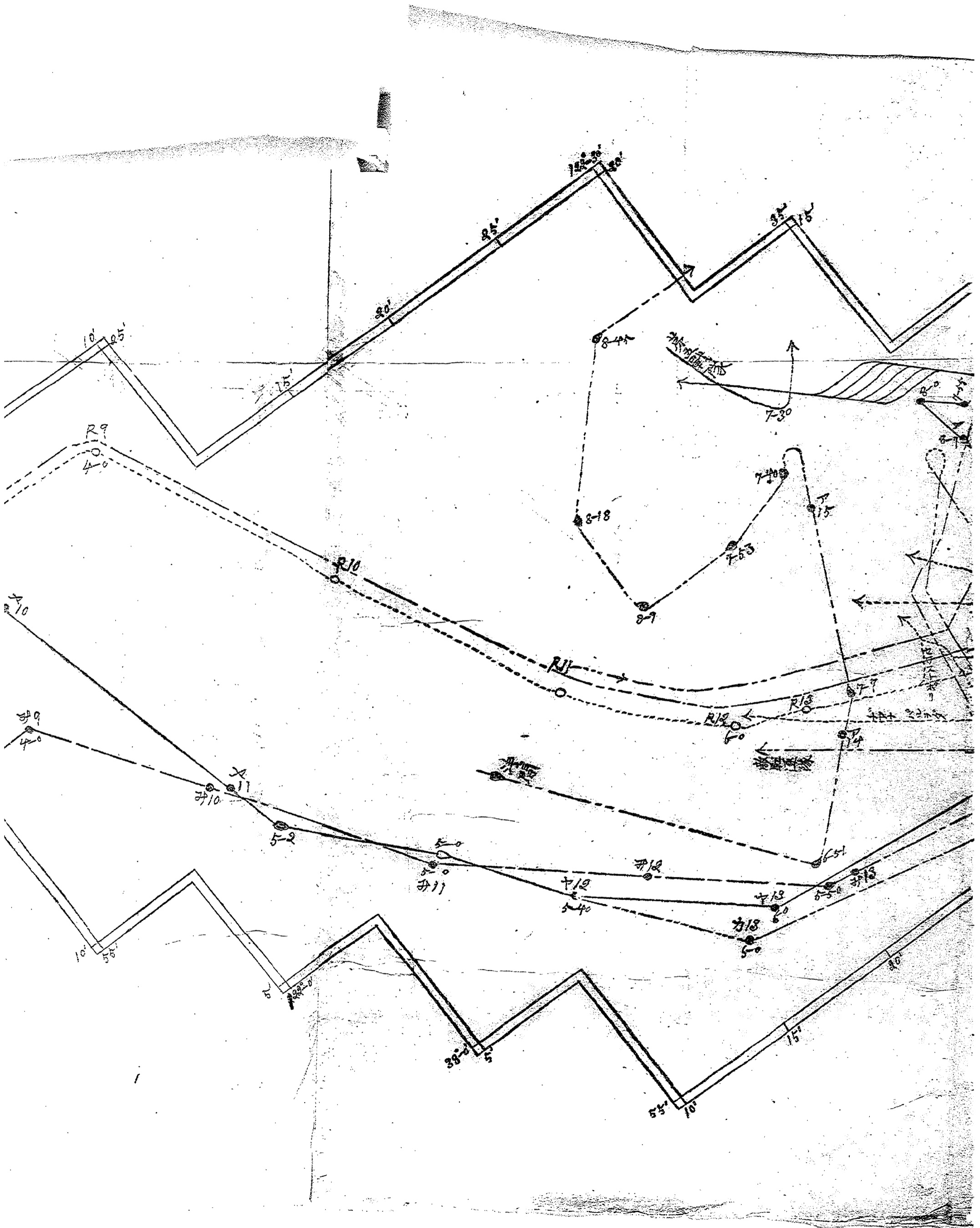
0558
 0559
 0560
 0561
 0562

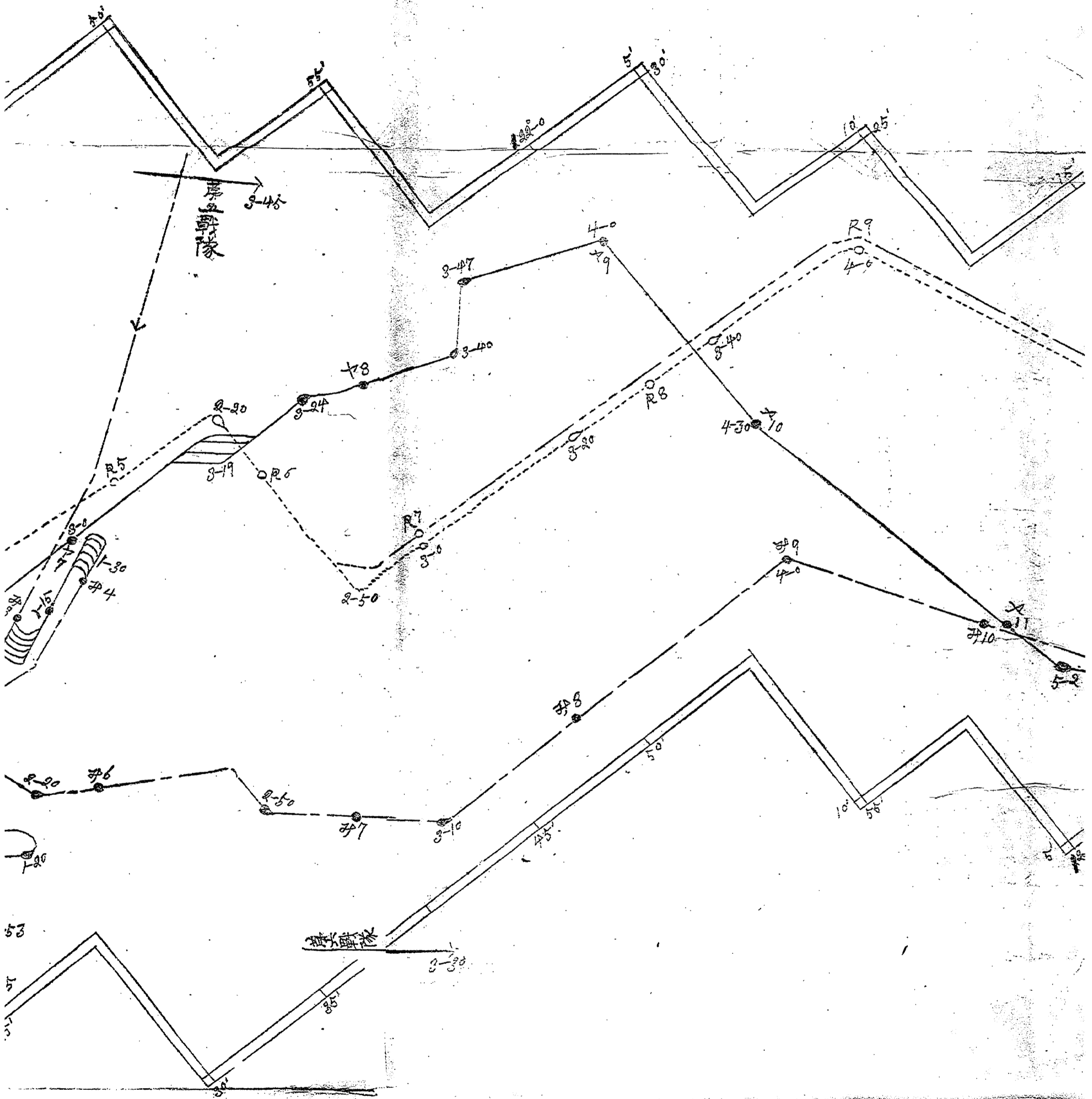


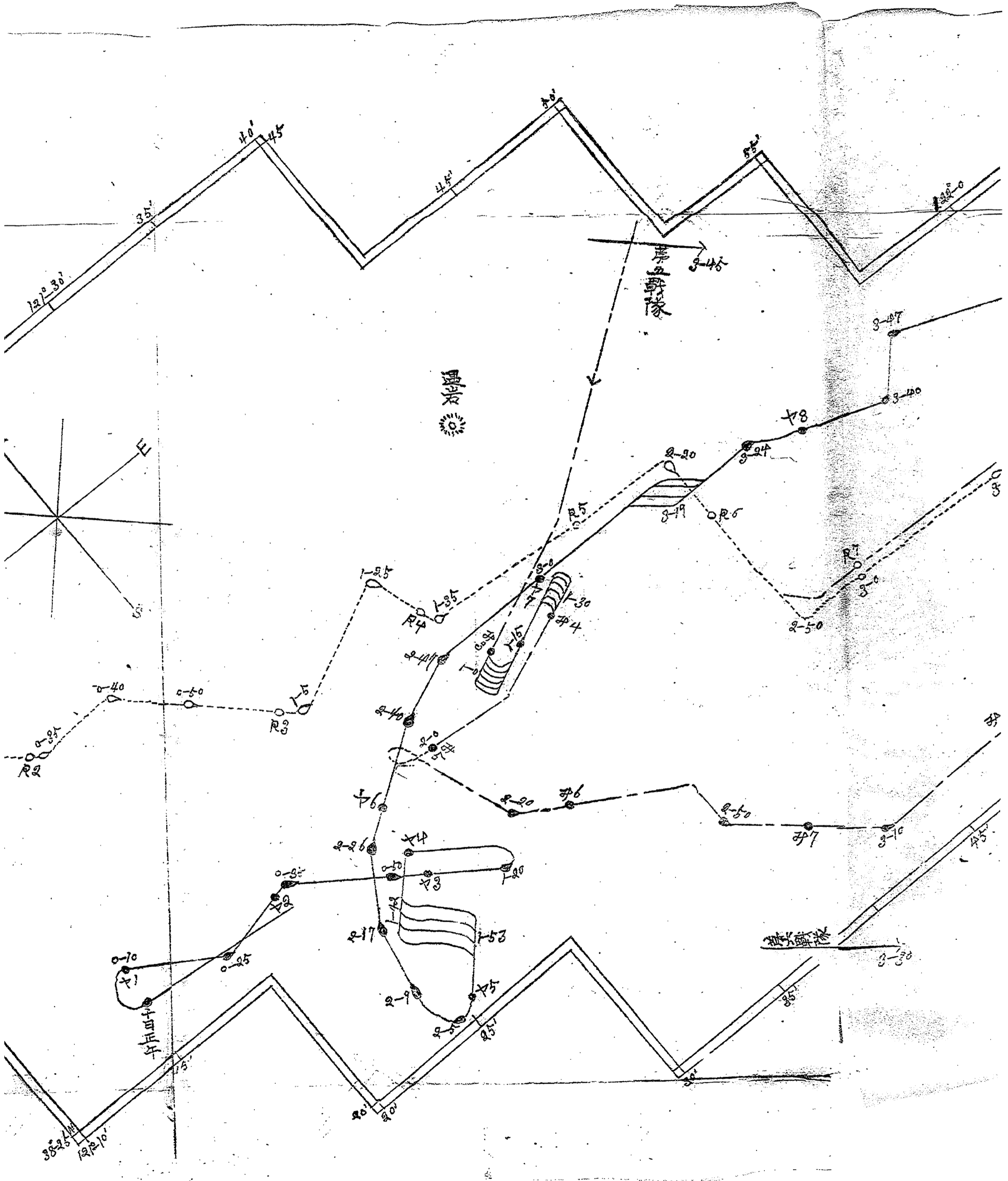
山東高緯三三三六緯度

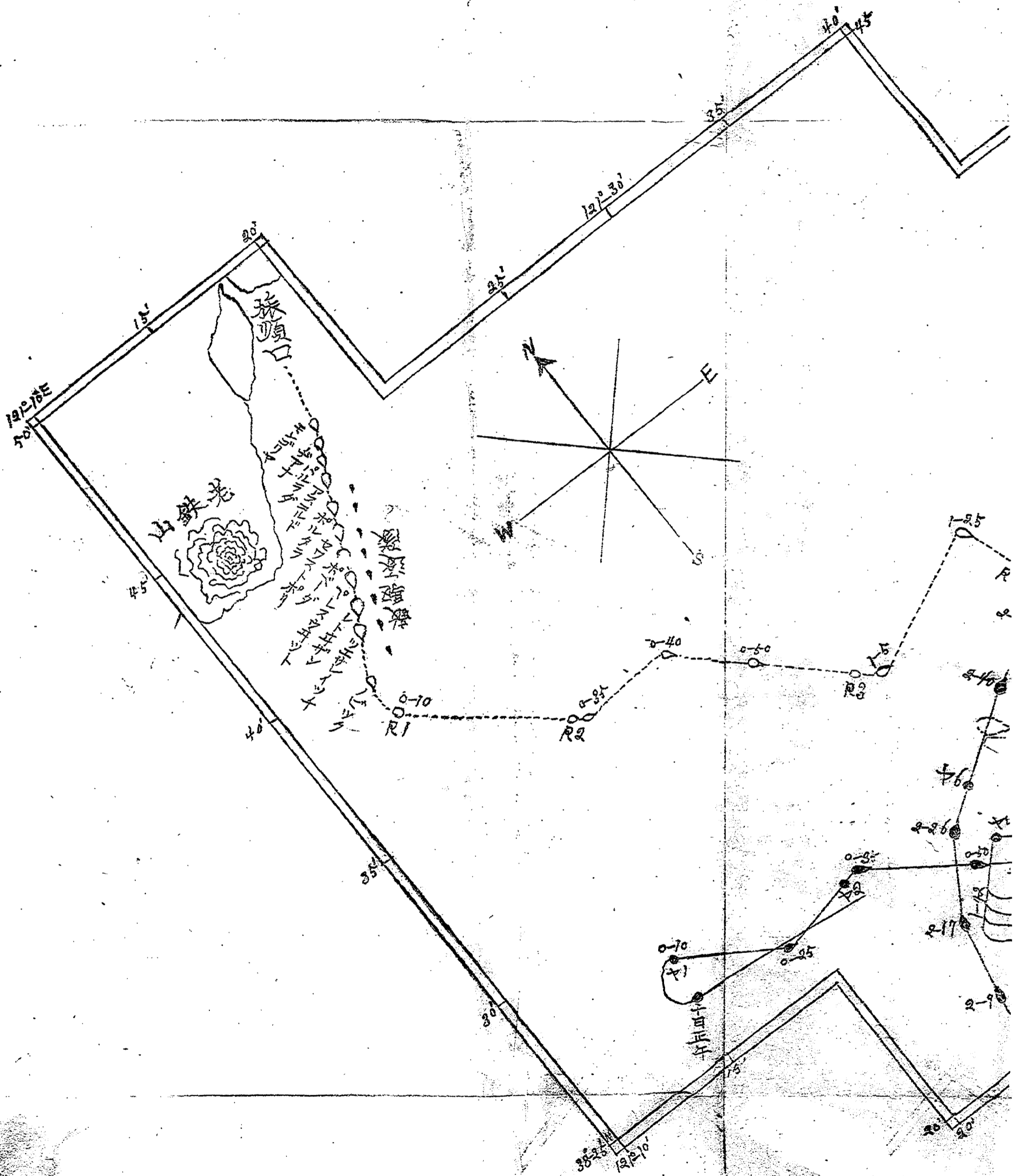
午後六時半頃以後、敵艦隊ハ
 界五裂シタルヲ以テ、其ノ
 位置ヲ圖示スル能ハズ

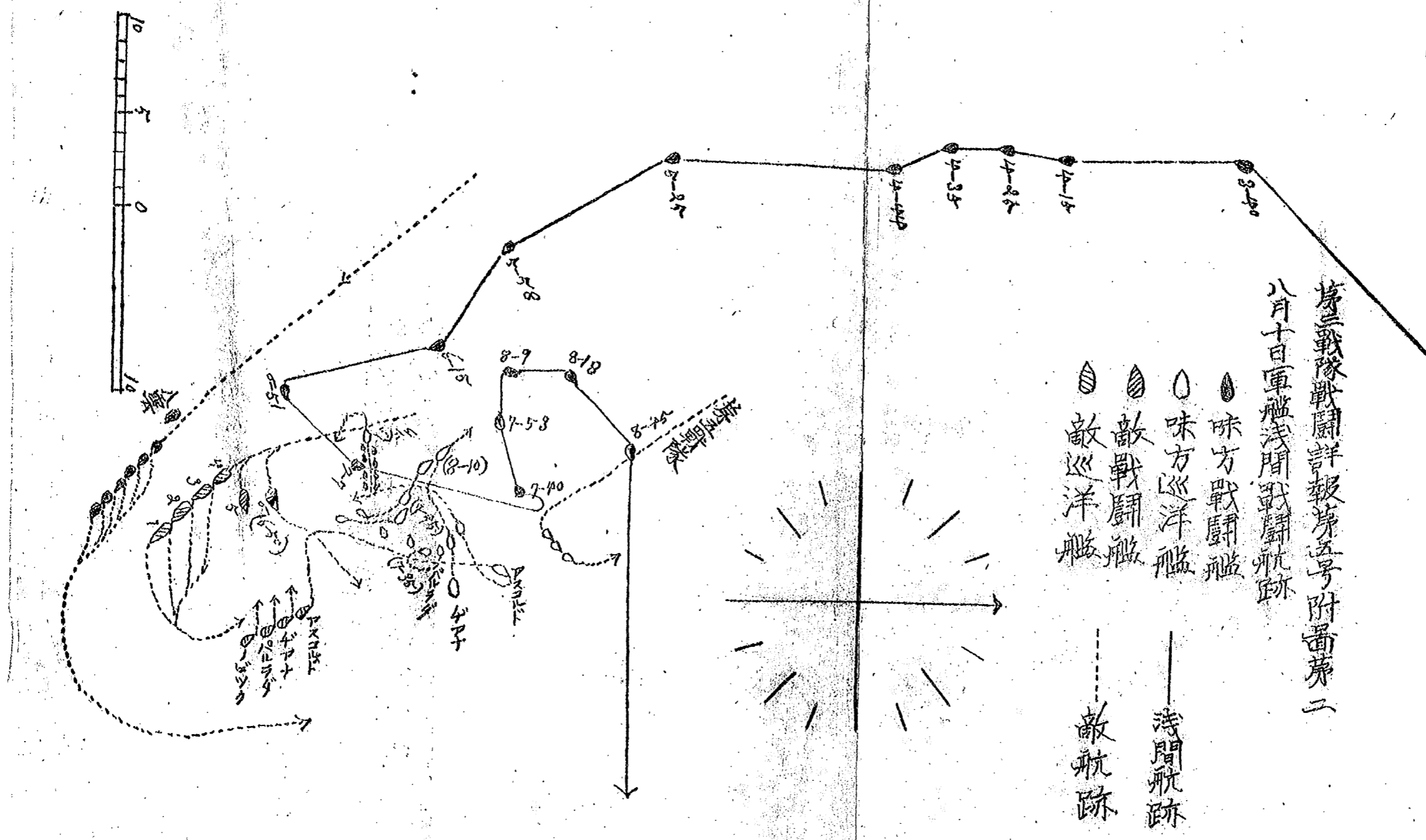
ヤ——— 第三戦隊航跡
 力——— 第三戦隊想像航跡
 ア——— 海軍航跡
 R——— 敵主戦艦隊想像航跡
 R——— 敵巡洋艦隊想像航跡
 R——— 敵駆逐隊想像航跡







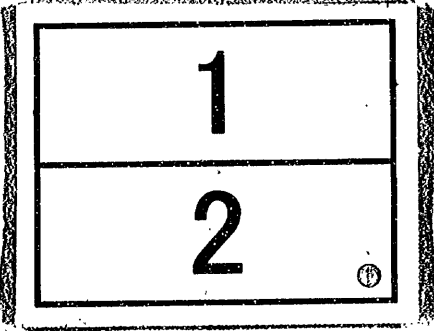




海軍戦隊戦闘詳報第5号 附圖第2
 八月十日軍艦浅間戦闘航跡

- 味方戦艦
- 味方巡洋艦
- ◐ 敵戦艦
- ◑ 敵巡洋艦
- 敵航跡
- 海軍航跡

分割撮影ターゲット

| | |
|---------------------|---|
| 分割した 部分の 撮影順序 |  |
| 分割撮影 した理由 | A 3 版 以 上 の た め |
| 上記のとおり分割撮影した事を証明する。 | |

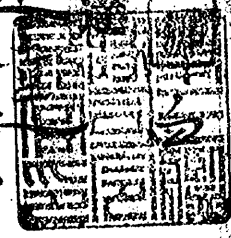
司令官 志

参謀長

参謀 副官 永田

大鐵機密第一六

三月四日進



参謀長

發

参謀

一 明 須磨 右 自 昔 苗 海 拾 戰 闘 詳 報

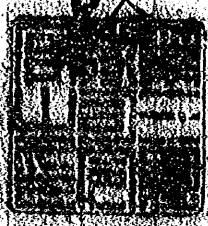
右 進 津 候 也

明治 三十八年 一月 三日

第三艦隊司令官 東郷 正 取

第三艦隊司令官 長官 岡 七 郎 殿

一 拾 拾



海 軍

0566 168

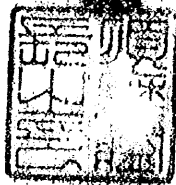
銅鑄機第 二七 号

進達

一明治廿七年八月十日 戦開元事
右及進達候也

明治廿七年八月十五日

第三艦隊司令長官片岡七郎殿



0567

40

機密第六七號

一冊用詳報

右岸津社支

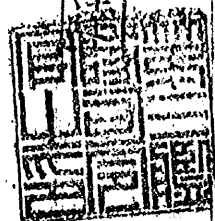
明治三十七年八月十二日

海軍艦長海軍大佐今村



第三艦隊司令長官片岡七郎 殿

八月廿一日進達



片岡

五
機密
四六

海

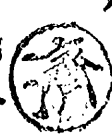
軍

0568



世界史
聯合艦隊
第一四五〇號

聯合艦隊第一四五〇號



別紙合戦圖三葉八三十七年八月十日黃海々戰中正午ヨリ午後
 三時迄及午後六時ヨリ日没過迄各戰隊ノ行動ヲ戰鬥詳報
 ニ依リ綜合調劑シタルモノニ有之又黃海々戰全圖ハ當日彼我
 兩軍對勢ノ概況ヲ示シタルモノニシテ共ニ聯合艦隊戰鬥詳報
 添付スヘキモノニ有之候處敵ノ位置戰形等ニ就キ各隊ノ觀
 察區々ニ沙ルルニシテ我第一戰隊ノ敵ヲ對スル位置及針路
 等ニ於テモ各隊ノ觀察大ニ異ナルモノアリ為ニ各隊ノ航跡圖ヲ
 其儘合併スルトキハ彼我ノ關係位置ハ勿論僚隊トノ關係位
 置モ種々不都合ヲ生シ戰鬥詳報ト關係セサルニシテ甚
 キニ至リテ僚隊衝突等ノ奇觀ヲ呈スル部分モ有之候
 就テ第一戰隊航跡及第一戰隊ヨリ見タル敵ノ推定航路ヲ
 基準トシ各隊ノ關係位置ヲ別紙ノ如ク記入致候ニ付各艦
 ニ於テ甚キ相違アリト思考セラルカ若クハ道漏ノ箇所ヲ
 發見セラルハ朱字ニテ御記入ノ上至急申込却相成様
 致度又各艦起程地ヨリ起算シ其位置ヲ海圖上ニ現ハス
 上ハ遇岩、田島、山東、高角等ノ方位及距離ニ多少相違

モ可有之ト存候ハトモ要ハ各隊ト敵艦隊若ク我主力トノ
關係位置ヲ知ルニテ以テ地物徑緯度等ノ關係ヲ脚
詎入相成様致度此段及脚照會候也

明治三十七年十一月廿八日

島村聯合艦隊參謀長

追元八月十日午前九時ヨリ第一合戦圖ニ入ル迄ノ各艦
航跡ハ黄海々戦全國三脚詎入相成度候也

0570